

循環器内科

診療科の紹介

当科では、すべての循環器疾患において「患者さんに科学的根拠に基づく質の高い最善の医療を安全に提供する」ことを第一とし診療を行なっております。当院には救命救急センターが併設されており、24時間救急患者を受け入れる体制も整えております。北九州地域の患者さん・医療機関の先生方のニーズに応え、信頼を得られるよう努力をして参ります。

取り扱う主な疾患

- 心不全(急性・慢性)
- 冠動脈疾患(狭心症、心筋梗塞)
- 心筋疾患(肥大型心筋症、拡張型心筋症、二次性心筋症(心アミロイドーシス、心サルコイドーシス、ファブリー病))
- 弁膜症(大動脈弁狭窄・閉鎖不全症、僧帽弁狭窄・閉鎖不全症)
- 不整脈(心房細動、徐脈性・頻脈性不整脈、期外収縮)
- 大動脈疾患(胸部・腹部大動脈瘤、大動脈解離)
- 末梢動・静脈疾患(閉塞性動脈硬化症、腎動脈狭窄症、深部静脈血栓症)
- 肺循環疾患(急性肺血栓塞栓症、慢性血栓塞栓性肺高血圧症)
- 高血圧症(二次性高血圧症)や脂質異常症(家族性高コレステロール血症)

など

当科の特徴

当科では、令和4年4月から常勤医2名、7月から1名が増員され合計3名の常勤医(3名とも循環器専門医)の診療体制となり、一時対応が困難となっておりました狭心症や心筋梗塞、末梢血管に対するカテーテル検査・治療や徐脈性不整脈に対するペースメーカー手術を再開しています。令和5年5月8日からは新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い病床利用制限も緩和されることから、循環器救急症例の受け入れを拡大することが出来るようになります。胸痛や労作時息切れ、突然の呼吸困難など、循環器疾患が疑われる患者さんがおられましたら、ご紹介賜りますようお願い申し上げます。

日本での心不全は75歳以上が7割超を占めており、超高齢社会の進行に伴い増加し続ける心不全(心不全パンデミックと呼ばれています)患者さんに対し、当院では併設された心不全センターにて生活習慣の見直し・改善や食事・運動療法、心臓保護を目的とした薬物療法、心臓リハビリテーションなど包括的な治療を行なっております。また必要に応じて心肺運動負荷試験(CPX)で運動強度を評価し

運動処方を行なっています。このような包括的治療にも関わらず心不全患者さんは残念ながら約2~3割の方が1年以内に再入院する(怠薬や塩分過剰摂取等にて)ことも分かっており、急性期医療機関の当院だけで解決できる課題ではなく、今後心不全患者さんの診療のための地域医療連携と心臓リハビリテーションを積極的に進めて参りますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

令和4年度 診療実績

項目	総数(名)
外来受診総数(1日あたり平均数)	2,810(11.6)
入院総数(1日あたり平均数)	3,966(10.9)
心不全入院総数	156

項目	総数
心臓カテーテル検査	78
冠動脈カテーテル治療()は緊急症例	36(9)
ペースメーカー植え込み術()は緊急症例	9(6)
カテーテルアブレーション	1
植え込み型心電計	3
末梢動脈カテーテル治療	1
腎動脈ステント治療	0
心筋生検	2

項目	総単位数
心臓リハビリ件数(1月あたり単位数)	2,131(178)

スタッフ紹介



循環器内科主任部長
津田 有輝
つだ ゆき



循環器内科部長
岩垣 端礼
いわがき はれい



循環器内科副部長
中村 圭吾
なかむら けいご